

## 事業所における自己評価結果 (公表)

令和5年度

事業所名 結ぶる美谷東京

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		4		・限られたスペースの中、家具の配置や仕切りをしている。また、室内と課外で分け、対応をしている。	・時間帯や利用者さんの状態で足りないと感じていることがある。・クールダウンスペースの確保がもう少し欲しい。
	②	職員の配置数は適切である	1	3		・規程上は足りているが、実質上は適切とは言えない為、法人に伝え検討中。	・足りないと感じている。規程の職員配置はなされているが、実質的にはもう少し必要。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	1	1	・数段の階段部分は両側に手すりを設置している。	・建物の構造上、仕方がないがエレベーターまで数段の階段がある。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	3	1		・その都度、職員とミーティングをしている。	・毎日のミーティングだけではなく、その都度共有している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			・送迎時の申し送り時での聞き取りもしている。また、電話でも把握するようにしている。	・アンケート以外でも、意向を把握できるようにする。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3		1	・HPの管理は法人で統括しているため、別でも会報をしています。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		・他事業所・機関の見学や意見を頂き、話し合っている。	・外部評価が行われているかを知らない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			毎週2回、事業所内研修の機会を確保している。	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			・日々の活動・面接時送迎時等を含め、分析した上で作成している。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1		・標準化されたアセスメントツールを利用している。	・共通して全職員が使い切れていない時がある。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・ミーティングを通し、行っている。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			・固定化が安心するお子さんが多いので内容を工夫している。	・平日のプログラムが固定しつつある。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			・平日・長期休暇かと課題を替えた上で設定している。	・課題の固定化
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			・お子さん、ひとりひとりに合わせて組み合わせ、計画を作成している。	・個別活動の偏りが少しある。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	3	1		・ボードへの記入・また口頭での打ち合わせで確認している。	
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			・支援提供日誌を記入しながら、その日の振り返り、気付いた点を共有。非常勤職員にも必ず周知している。	・支援終了後は非常勤職員は振り返りができない。	
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			・支援提供日誌にて記録し、必ず全職員に伝え、繋げている。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	4			・日々の活動の様子 を伝え、送迎時の申 し送りや電話等で見 直しの必要性を判断 している。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	3	1		・基本活動を複数組 み合わせた上で、お 子さんに合わせた支 援を行っている。	・ガイドラインの内容がわ からない。⇒説明し周知す る。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	3	1		・担当している職員 が参加し、情報を聞 き取りしている。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡）を適切に行っている	4			・保護者の方から情 報を頂き、連絡調整 を行っている。また、 送迎時に学校との情 報共有も行ってい る。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	3			・医療的ケアが必要なお子 さんの受け入れはしていな い。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	4			・見学や契約時に保 護者より情報をも らったり電話などで 共有に努めている。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	2	2		・移行がなかったの で、今後は提供して いく。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	4			・こまめに連携し、研 修を受け、業務 改善に繋げていく。	・連携はしているが、研修 は受けていない。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	2	2		・公園やイベントJへ の参加で交流を図っ ています。	・なかなか機会がない。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	3	1		・在籍しているお子さん の年齢も上がってきて いるので積極的に参加 できるようにしていく。	・協議会への参加の日時 によっては困難。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	4			・電話や送迎時の申 し送りで、共通理解 を持てるようにしてい る。	
保	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	3	1		・気づいた時に助言 を行っている。今後 はトレーニングの支 援も職員に行ってい く。	・ペアレント・トレーニング はしていない。
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	4			・契約時・改定後の 変更時等、その都度 行っている。	
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			・傾聴し、寄り添いを 心がけ、助言と支援 を行っている。	
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	4			・年に1回保護者会 を開催している。年2 回の検討もしていく。	・保護者会を年に2回開催 した方がよい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			・苦情・意見箱を用意している。電話や職員からの聞き取りで対応している。	・対応はしているが、周知はされていないのかはわからない。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			・毎月の要望書やブログで発信している。	
	③⑤	個人情報に十分注意している	4			・活動場と事務所を分け、鍵付きのロッカーへ保管している。	
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			・写真・絵カード等を使用したり、サインなどを行っている。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2		・地域住民の行事の参加を行っている。	・招待はしていないが、外でのイベント(クリーン作戦や避難訓練等)地域の方との交流の場は設けている。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4			・策定し、掲示している。保護者会で周知しているが、再度周知できるようにする。	・保護者会と手紙で一部のマニュアルは周知している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			・2ヶ月に1回、必要な訓練を行っている。また、長期休暇時に防災館へ毎年2回訓練している。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			・研修の確保をし、また活動内でも気づいた点はその都度対応をしている。	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			・危険を伴う場合、安全確保の時に職員と話し合い、決定し、保護者へ説明している。	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			・保護者からの情報・医師からの指示書の持参をお願いし、事務所のわかる場所へ掲示し全職員の把握、対応をしている。	
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			・事例はもちろんのこと、実在した場合はすぐに共有・記録に残し、対応・対策を話し合っている。	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。